

# 知る

23区をもっと知ってもらいたい。

特別区自治情報・交流センターでは、統計データ、書籍をそろえて、皆さんのお越しをお待ちしています。

## 『所蔵資料』蔵出し — 『東京五拾区縮図』その1 —

『東京五拾区縮図』—これは、東京における“行政区割”端緒の地図です。

明治元（1868）年に、江戸が東京と改称し東京府が設置され、同2（1869）年に、東京朱引内外の境界が定められ、朱引内の町地を50区に分ち各区に中年寄等を置き、戸数人口調査が行わ

れました。このような時期に『東京五拾区縮図』は作られました。

当時は明治維新の混乱の最中。東京の行政を進めていく上で地図は重要なツールではなかったのではないのでしょうか。

今回は『東京五拾区縮図』の『一番組』を紹介すると共に、この地域一番の話題に触れます。

### 『東京五拾区縮図 一番組 本町その他』

『一番組』に描かれた地域は、南に日本橋川、西に御堀、北側が龍閑川（神田掘）、東側が本町・本石町・本銀町の各々四丁目の一帯です（図01では上部が西方面）。当時、21町に1984戸あり10561口の人々が暮らしていました。

この地域は、五街道の起点となる日本橋、金貨製造所の金座、多くの商店や問屋が軒を並べる本町通り・本石町通りがあり、大変な賑わいをみせていました。

●『東京五拾区縮図』は、特別区自治情報・交流センターで、原資料を複製製本したものを閲覧できます。



『一番組 本町その他』

### 『御府内沿革図書』にみる本町付近

図02は、『御府内沿革図書第一編下』にある『常盤橋御門内当時之形（文久元年）』の地図（一部）です。赤枠部分を比べるとまったく変わっていません。

同書には、『延宝年中之形』の地図もあり、「延宝以前より相替儀無之、道式等当時之形二有之」と書かれています。この付近の道等は、延宝年代（西暦1673～1681年）から、ほとんど変わることなく明治期を迎えたことがわかります。



『常盤橋御門内 当時之形（文久元年）』の一部 東京都公文書館所蔵

## 日本橋から見える一石橋・江戸城・富士山 — 『富嶽三十六景』の風景と現在の風景—



『富嶽三十六景 江戸日本橋』 東京江戸博物館所蔵



橋上から見た現在の日本橋川  
〔平成23年8月16日撮影〕

葛飾北斎作『富嶽三十六景』の『江戸日本橋』を見ると、日本橋を行き交う人々、日本橋川兩岸倉地、その先に一石橋、その奥に江戸城天守閣、さらに遠く富士山を眺望できます。絶景ですね。

日本橋の創架は慶長8（1608）年といわれています。橋名の由来は、『復刻日本橋区史（大正5年9月15日発行初版本定本）』によると、諸説あり定説がないとしながらも「当時誰いふとなく諸人一同日本橋と呼びて、遂に其の名を得るに至りしこと真なるが如し」と結んでいます。うなずける由来ですね。

時代は進んで昭和38（1963）年。日本橋の橋上に首都高速道路が作られ、今や東京の交通の大動脈です。約300年間あまり変わらなかった風景が、ここ50年位で大きく変わりました。

そして、この地域一番の話題は、日本橋の上を通る首都高を撤去移動させるプロジェクトの動向ではないでしょうか。徳川家康が始め、日本中を巻き込んだ江戸大普請。首都高の撤去移動も日本中を巻き込みそうですが、誰が現代の徳川家康になるのでしょうか。



（写真提供・江東区）

## 江東区の魅力紹介展示 江戸を感じる江東区

人情味あふれる東京の下町・江東区は、江戸の面影をそこかしこに残す「江戸を感じられるまち」でもあります。江戸深川・佐賀町の人々の暮らしを実物大に再現した「深川江戸資料館」、江戸時代より続く藤・梅の名所「亀戸天神」などを中心に、江東区に残る江戸の面影を紹介します。

《開催日》11月15日(火)～12月8日(木) 《展示時間》平日9:30～20:30 土曜日9:30～17:00 (日・祝を除く) 《会場》東京区政会館 1階エントランスホール

次回の展示は、練馬区の魅力紹介展示。12月中旬の実施を予定しています。

# 知る

23区をもっと知ってもらいたい。

特別区自治情報・交流センターでは、統計データ、書籍をそろえて、皆さんのお越しをお待ちしています。

## 『所蔵資料』蔵出し - 『東京五拾区縮図』その2 -

東京の行政区画の第一歩である五十区は、明治2(1869)年3月10日「名主ヲ廢シ」、翌11日「中年寄添年寄ヲ任命ス」、同月16日「市内ヲ五十区二分チ、区毎二町用取扱所ヲ設ケ、中年寄添年寄ヲ置キ、五区毎二世話掛中年寄ヲ置ク」と始まりました。その後、明治4(1871)年6月13日「朱引内区法ヲ改メ、分チテ四十四区トス」され、五十区は終わりました。

『東京五拾区縮図』の袋紙には「庚午〔かのえうま〕9月改」と書かれており、五十区の短い実施期間の明治3(1870)年9月頃に作られたと考えられます。

今回は『東京五拾区縮図』の『十七番組』『十八番組』を紹介すると共に、この2枚の地図だけに書き込まれている中添年寄について触れます。



『十七番組 芝田町(五丁)その他』

### ■『十七番組 芝田町(五丁)その他』

『十七番組』に描かれた地域は、東は東海道の江戸前の海、南に芝大木戸・伊皿子坂・魚籃坂、西が古川四之橋付近、北は札ノ辻付近の一带です(左図では上部が北方面)。当時14町に960戸、3702人の町民が暮らしていました。

五十区は人口約1万人を目安に区分したのですが、『十七番組』の人口は目安の半分以下。東海道から古川四之橋周辺まで広範囲の割には少ない人口で、五十区中2番目の少なさでした。

### ■『十八番組 芝車町その他』

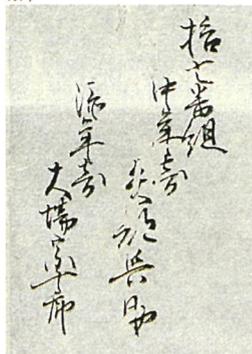
『十八番組』に描かれた地域は、『十七番組』から南に続く東海道一帯で、江戸前の海に面した地域です(右図では上部が東方面)。南は品川宿に続き、北に芝大木戸、当時8町に1283戸、5044人の町民が暮らしていました。

この地域は、東海道の江戸の入口にあたり、江戸出入の人々の往来で賑わっていました。地図中央辺りに「泉岳寺」、その西側に大石良雄(内蔵助)が切腹したとされる「熊本藩中邸」が確認できます。

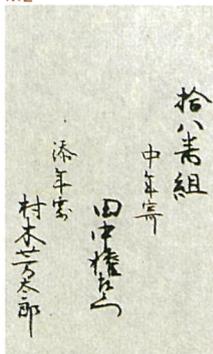


『十八番組 芝車町その他』

※1



※2



### ■「名主」に代わる「中年寄」「添年寄」とは

『十七番組』と『十八番組』に書かてている中添年寄の氏名は、それぞれ「中年寄矢部与助 添年寄大場惣十郎」(左図左側)、「中年寄田中権左衛門 添年寄村木芳太郎」(左図右側)とあります。どのような人が中添年寄に任命されたか調べていませんが、その地域に関係している人が任命されたのではないのでしょうか。それでは中添年寄は、どのような仕事をやっていたのでしょうか。

『都史紀要五 区制沿革(昭和33年3月発行)』によると「中添年寄の任務は、旧名主のそれを継承したものであった。名主時代も人別改めは重要な任務であったが、中添年寄任命の由来から見ても、戸籍事務は重要な任務の一つで

あった。」とあり、また「その他、町入用の改め、公事出入の調停や世話、検使行倒れや窮民救済の世話、地面売買の加印、久離義絶の糺し、火事場に於ける人足の監督、川船新製譲渡の奥印等である。」とあります。

今で言えば、区の戸籍や福祉の仕事から、裁判・登記や消防の仕事まで、掌っていたことがわかります。驚きですね。

本執筆に当たり、『芝区誌(昭和13年3月発行)』、『港区史(昭和35年3月発行)』、『新修港区史(昭和54年5月発行)』、『都史紀要五 区制沿革(昭和33年3月発行)』、『東京市史稿市街篇第50～52(平成13年復刻版発行)』を参考にしました。なお上記資料は、特別区自治情報・交流センターで閲覧できます。

# 知る

23区をもっと知ってもらいたい。

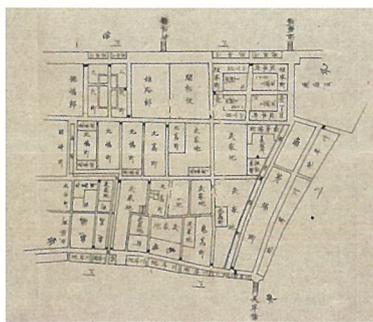
特別区自治情報・交流センターでは、統計データ、書籍をそろえて、皆さんのお越しをお待ちしています。

## 『所蔵資料』 蔵出し - 『東京五拾区縮図』 その3 -

明治2(1869)年に始まった五十区制では、朱引内の982町を50番組に分け、それぞれに中添年寄を置き支配させました。平均すると一番組当たり20前後の町を持つことになるのですが、10に満たない町数の番組が六、十八、二十一、二十八、四十二、五十番組の6つあります。五十

番組の新吉原は別にして、なぜ町数が少ないのでしょうか。

今回は、そのうち『六番組南茅場町その他』『二十八番組駒込東片町その他』『四十二番組浅草南馬道町その他』を紹介すると共に、町数が少ない理由に触れてみます。



『六番組 南茅場町その他』

### ■『六番組 南茅場町その他』

『六番組』に描かれた地域は、現在の中央区日本橋茅場町1～3丁目一帯。当時所属した町は、南茅場町、坂本町1、2丁目、亀島町、北島町、三代町の6町。江戸時代、この辺りには小説やドラマでおなじみの町奉行の与力・同心の組屋敷がありました。

『中央区沿革図集 [京橋篇] (平成8年3月発行)』によると「北島町・竹島町・亀島町はすべて同心の拝領屋敷で、同心はその屋敷の一部に住み、宅地の大部分は家守を通じて町人身分の者に貸し付けて、給与の一部にしていました。(中略) 原則的には武家地だったわけです。」とあります。

町地を支配する中添年寄が管轄していた地域は、少しの町地と町人が住みついた一部の武家地だけだったようです。

### ■『二十八番組駒込東片町その他』

『二十八番組』に描かれた地域は、現在の文京区本駒込1丁目、白山1、5丁目と向丘1、2丁目一帯。当時所属した町は、駒込東片町、駒込追分町、駒込着町、小石川指谷町、白山前町、駒込浅嘉町、丸山新町の7町。この地域には現在も残っている寺社や、御先手や大御番の大縄地が数多くありました。

『文京区史巻三 (昭和43年8月発行)』によると「2年(1869)11月には武家地・寺社地も東京府の管轄内に編入され、それぞれ新しく<sup>ふれがしら</sup>触頭がおかれ」とあります。

武家地や寺社地は東京府の管轄になりましたが、中添年寄の支配下にならなかったため、町地は上記の7町だけでした。



『二十八番組駒込東片町その他』



『四十二番組浅草南馬道町その他』

### ■『四十二番組浅草南馬道町その他』

『四十二番組』に描かれた地域は、現在の台東区浅草2丁目と花川戸1、2丁目の馬道通り沿い、浅草6丁目の一帯。当時所属した町は、浅草南馬道町、浅草南馬道新町、浅草北馬道町、浅草医生町、猿若町1～3丁目の7町と、浅草寺地中34ヶ院内町屋。この番組は四十一、四十三番組と同じく大半が浅草寺領でした。

『台東区史通史編Ⅱ(上巻) (平成14年2月発行)』によると「門前町・境内町は浅草寺領であったから、当初は寺社奉行の支配下、(中略)浅草寺門前町の町場化は(中略)かなり進行していたようであり(中略)寺社奉行から町奉行に支配替え(中略)境内町も町奉行支配に移された。」とあります。

浅草寺領の門前町等は町場化が進み中添年寄の支配下となったようですが、『四十二番組』には広大な浅草寺そのものがあり、町人の住む門前町等は少なかったようです。

# 知る

23区をもっと知ってもらいたい。

特別区自治情報・交流センターでは、統計データ、書籍をそろえて、皆さんのお越しをお待ちしています。

## 『所蔵資料』 蔵出し 番外編

### 『東京五拾区縮図』でたどる赤穂浪士引き揚げの道 その1 -

『東京五拾区縮図』に描かれている区域は、旧町奉行が管轄していたものです。東は大横川、西は新宿御苑手前、南はハッ山橋、北が本駒込辺り。町地のみならず、名称入りで藩邸や神社仏閣も数多く描かれています。

なかでも、『四十五番組』に回向院（墨田区両国二

丁目）が、『十八番組』に泉岳寺（港区高輪二丁目）が載っており、赤穂浪士が吉良邸討ち入り後に引き揚げた道は、すべて『東京五拾区縮図』に入っています。

今回は、その引き揚げた道のうち、吉良邸のあった本所松坂町（墨田区両国三丁目）から永代橋までを、『東京五拾区縮図』とともにたどってみます。

### 赤穂浪士引き上げの道（本所松坂町～永代橋）



#### ■ 四十五番組 南本所元町その他

引き揚げの道が始まる本所松坂町は『四十五番組』に載っています。

吉良邸跡は公園になっており、当時の大きさはサッカー場ほど、少し離れたところには正門跡を示す案内札があります。ここから竪川に架かる一之橋へ向います。ここまでが墨田区です。



●本所松坂町公園 ●吉良邸正門跡案内札

#### ■ 四十六番組 本所相生町(五丁)その他

一之橋を渡ると『四十六番組』に入り江東区になります。橋のたもと(北側)の案内札には、赤穂浪士が引き揚げのとき最初に渡った橋と書かれています。

ここから隅田川沿いは、江東区の道路愛称名路線「一之橋通り」「万年橋通り」「佐賀町河岸通り」を進みます。



●一之橋案内札 ●一之橋欄干

#### ■ 四十七番組 深川元町その他

現在の新大橋通りが『四十六番組』と『四十七番組』の境になります。新大橋は現在より200m程下流でした(江東区芭蕉記念館南辺りに石碑があります)。

小名木川北岸には、川船で通る人や荷物を検査する番所(後に中川番所へ移転)や芭蕉の住んだ草庵がありました。



●川船番所跡案内 ●江東区芭蕉記念館

#### ■ 四十八番組 深川大和町その他

小名木川に架かる万年橋は、安藤広重「江戸名所景」や葛飾北斎「富嶽三十六景」に描かれた名所です。橋を渡ると『四十八番組』に入ります。当時永代橋に至るまでに「上之橋」「中之橋」「下之橋」を渡りました。

現在「上之橋」辺り(仙台堀川と隅田川の合流地点)には、内部の川が氾濫した際に水を隅田川へ排水する施設があります。また水路(堀)のあった辺りが、道路の起伏(凸部)で分かります。



●上之橋跡 ●清澄排水機場案内 ●起伏のある佐賀町河岸通り

「明治当初の地図では道の様子が変わっているだろう」と考えがちですが、「東京五拾区縮図」(複製)と現行地図を片手に、本所松坂町公園から永代橋まで実際に道をたどってみると、思わぬほかに地図どおりに歩くことができます。地図は古来より貴重なものであったのです。

# 知る

23区をもっと知ってほしい。

特別区自治情報・交流センターでは、統計データ、書籍をそろえて、皆さんのお越しをお待ちしています。

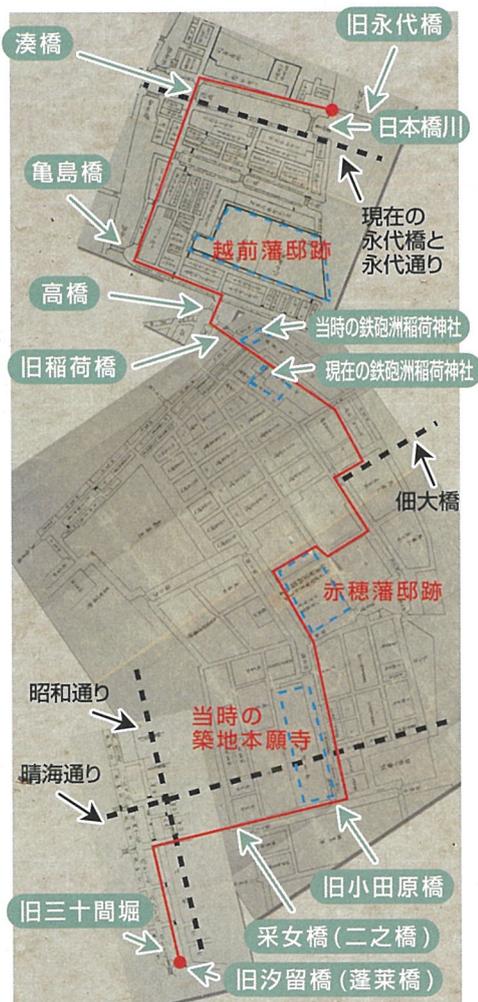
## 『所蔵資料』蔵出し 番外編

### 『東京五拾区縮図』でたどる赤穂浪士引き揚げの道 その2

『東京五拾区縮図』に描かれている区域は、旧町奉行が管轄していたもので、東は大横川、西は新宿御苑手前、南は八ッ山橋、北が本駒込辺りです。町地のみならず、名称入りで藩邸や神社仏閣も数多く描か

れており、赤穂浪士が引き揚げた道も入っています。今回は、前回の本所松坂町～永代橋間に引き続き、引き揚げの道のうち、永代橋から汐留橋までを『東京五拾区縮図』とともにたどってみます。

### 赤穂浪士引き揚げの道（永代橋～汐留橋）



#### ■ 七番組 南新堀（二丁）其他

深川から永代橋を渡ると『七番組』に入ります。日本橋川に架かる湊橋を渡り、亀島橋のたもとを通り、亀島川（越前堀）に架かる高橋へと向かったと思われます。なお、亀島橋のたもとには浪士の一人「堀部安兵衛武庸之碑」があります。



●深川から日本橋川に架かる豊海橋を望む。左の永代橋は、当時豊海橋とある「堀部安兵衛武庸之碑」の右側に架かっていました

#### ■ 八番組 本八丁堀（五丁）その他

『八番組』は高橋を渡って南側にある稲荷橋を渡るまで、すぐ『十番組』に入ってしまう。稲荷橋は八丁堀に架かる橋でしたが、埋立てにより今では石碑が残っているだけです。『十番組』の管轄地域になりますが、当時、稲荷橋のたもとには「鉄砲洲稲荷神社」があり、安藤広重の「江戸名所百景」にも描かれています。



●稲荷橋の石碑 ●現在の鉄砲洲稲荷神社

#### ■ 十番組 南八丁堀（四丁）その他

浪士一行は隅田川沿いから一本西の道を進み、現在の佃大橋西詰を通り、聖路加看護大学敷地にあった赤穂藩邸に向かい、藩邸門前で仇討ち完遂の儀式を行ったと言われています。敷地内には「都旧跡浅野内匠頭邸跡」の石碑があります。その後、築地本願寺脇の水路沿いを南に向い、築地場外市場にあった小田原橋を渡り、今は高速道路に架かる采女橋を渡ったと思われる。なお、築地本願寺には浪士の間新六の墓碑があります。



●聖路加看護大学にある「都旧跡浅野内匠頭邸跡」の石碑 ●東京大学工学部教授伊東忠太が設計した現在の築地本願寺

#### ■ 十一番組 木挽町（七丁）其他

采女橋を渡ってから昭和通りまでの辺りは、当時武家地で町地が無く、町地の管轄図であった「五十番組」には載っていません。浪士一行は、昭和通りの一本西側の道を汐留橋へ進んだと思われます。この道の右側には三十間堀があり、引き揚げルートには水路沿の道が多かったように思います。



●采女橋の欄干 ●汐留橋があったと思われる辺りは首都高速都心環状線が通っています。

平成 25 年 8 月 10 日(土)、前回と同じく『東京五拾区縮図』(複製)と現在の地図を持って、永代橋から汐留橋まで歩きました。今回のルート(すべて中央区内)は、当時の道・水路・橋が部分的に無くなってしまったため、何度か引き返しながらたどりました。しかし、地図上に残っている道や水路などの向きが大幅に変わることはなく、進む方向を大きくそらせることはありませんでした。やはり地図は面白いですね。

# 知る

23区をもっと知ってもらいたい。

特別区自治情報・交流センターでは、統計データ、書籍をそろえて、皆さんのお越しをお待ちしています。

## 『所蔵資料』 蔵出し 番外編

### - 『東京五拾区縮図』 でたどる赤穂浪士引き揚げの道 その3 -

『東京五拾区縮図』に描かれている区域は、旧町奉行所が管轄していたものです。東は大横川、西は新宿御苑手前、南は八ッ山橋、北が本駒込辺り。町地のみならず、名称入りで藩邸や神社仏閣も数多く描か

れており、赤穂浪士が引き揚げた道も入っています。今回は引き揚げの道の最終回。旧汐留橋から泉岳寺までを『東京五拾区縮図』とともにたどってみます。

### 赤穂浪士引き揚げの道 (旧汐留橋～泉岳寺)



#### ■ 十四番組 芝口(三丁)その他

旧汐留橋の架かる水路が『十一番組』と『十四番組』の境。現在「首都高速都心環状線」が通っています。旧汐留橋からは東海道(第一京浜)の海寄りの道を『十五番組』に流れる古川まで進みました。この道は東海道側に町屋、海側に大名屋敷があり、赤穂浪士一行は当時あった仙台藩邸と会津藩邸の門番から誰何を受けたと言われています。



●明治期、汐留橋の新橋側は新橋四丁目目比谷橋停車場で、現在プラットホームや駅舎が再現されています。 ●新橋四丁目目比谷通りに立つ「浅野内匠頭終焉之地」石碑

#### ■ 十五番組 芝浜松町(三丁)その他

増上寺大門へ通じる道から『十五番組』に入ります。一行は古川まで直進し、つきあたりで東海道に出て金杉橋を渡ったと思われます。当時、金杉橋辺りは海を臨み、遠く築地辺りまで見え、歌川広重の「江戸名所百景」にも描かれています。



●金杉橋から見た、釣り船・屋形船が浮かぶ現在の古川 ●江戸名所百景の「金杉橋芝浦」

#### ■ 十六番組 本芝(四丁)その他

一行は東海道を進み、旧入間川に架かる旧芝橋(現在の芝四丁目交差点)を渡ります。旧芝橋から『十六番組』になり、この付近は当時「雑魚場」と呼ばれ、魚市場があり、落語「芝浜」の舞台にもなりました。



●札の辻交差点から見た桜田通り。写真右側辺りに高札場があったと思われます。 ●御田八幡神社 この付近で、仇討ち強硬派から脱退した高田郡兵衛が祝い酒を持って出迎えますが、一行は無視したという逸話があります。

旧札の辻高札場から『十七番組』に入ります。札

の辻交差点で東海道と合流する桜田通りは近世以前からある古道で、徳川家康の江戸入りもこの道を通ったと言われています。



●海側の石垣だけが残る「史跡高輪大木戸趾」。石碑の裏には「昭和7年3月建設東京市」とあり、市制時代のものかと妙に感じました。 ●泉岳寺山門 境内には浅野内匠頭や赤穂浪士の墓の他、浪士ゆかりの品を所蔵している「赤穂義士記念館」があり、12月14日には「義士祭」が開かれます。 ●熊本藩邸跡にある「赤穂義士史蹟碑」。熊本藩に預けられた大石良雄他16名はここで切腹しました。

#### ■ 十八番組 芝車町その他

高輪大木戸趾から『十八番組』。引き揚げの道のゴール、泉岳寺は東海道から少し西に入ったところにあります。一行は、本所松坂町吉良邸で2～3時間の格闘後、泉岳寺まで約12Kmの道のりを約2時間で歩いたそうです。

平成25年11月2日(土)、前回、前々回と同じく『東京五拾区縮図』(複製)と現在の地図を持って、旧汐留橋から泉岳寺・熊本藩邸跡まで歩きました。今回のルート(すべて港区内)は、出発した旧汐留橋付近以外、当時の引き揚げの道をたどることができます。当日は小雨が降ったり止んだりの天気でしたが、泉岳寺には20～30人の参詣者がいて、赤穂浪士の人気を物語っていました。- 6 -

(公財)特別区協議会には『東京五拾区縮図』以外にも、所蔵する地図や資料がたくさんあります。今後も地図や資料で東京23区を紹介していきたいと思ひます。